

2018年12月3日

関係各位

野村アセットマネジメント株式会社
株式会社野村資本市場研究所**【ご参考資料】「金融ジェロントロジーと人生満足度調査」結果について**

～シリーズ「人生100年時代の資産運用のあり方を探る」～

野村アセットマネジメント株式会社（CEO兼執行役社長：渡邊国夫）は、2018年6月に「人生100年時代の資産運用のあり方を探る」とした意識調査を実施しました。

調査対象分野として、「金融ジェロントロジーと人生満足度調査」＜株式会社野村資本市場研究所（取締役社長：松谷博司）と弊社の共同実施＞、「人生100年時代の資産形成に関する調査」、「金融リテラシー・テストと投資家特性調査」の3分野について、アンケート調査を実施致しました¹。

「金融ジェロントロジーと人生満足度調査」について、主な調査結果は以下のとおりです。

【主な調査結果】

- ◆ 世代別人生満足度
 - ・人生満足度は、現役層では低く、シニア層全体で高い傾向が見られる。総じてみると、女性の方が高く、夫婦の就業状態別にみると、総じて共働き世帯は高い。金融資産階級別にみると、上位層では人生満足度は高いが、金融資産1億円以上になると、頭打ちとなっている。
- ◆ 人生満足度と資産運用の関係
 - ・人生満足度と金融資産の関係をみると、金融資産が多い層で満足度が高い傾向が見られた。もともと同じ金融資産階級や所得階級でも資産運用を行っている投資家の方が、未保有者よりも高い。また、生活の質と資産運用とが密接に関係している様子がうかがわれる。
- ◆ 親世代の財産管理に無頓着な子の意識
 - ・シニア層において、その親の財産管理について調べたところ、8割程度が財産状況を知らないか、もしくは、知っていても何も支援していない状況にあった。一方、その親に対する老齢化の認識をみると、介護を要する状況にあると認識しつつも、支援していない状況にある。
- ◆ 老後資金の運用に対する意識
 - ・老後資金について、シニア層の半数が「生活資金として使い、結果として残りを相続すればいい」と回答しており、長寿生活の中で老後資金は目減りする可能性がある。一方、金融資産の上位層では、生活資金と区分して相続資金を準備している。金融資産の取り崩しは、資産の3%程度と前回調査と同じ比率となり、また計画性についても同様に9割程度が計画はないとしている。

¹各調査結果の概要は、弊社サイトに掲載しています。

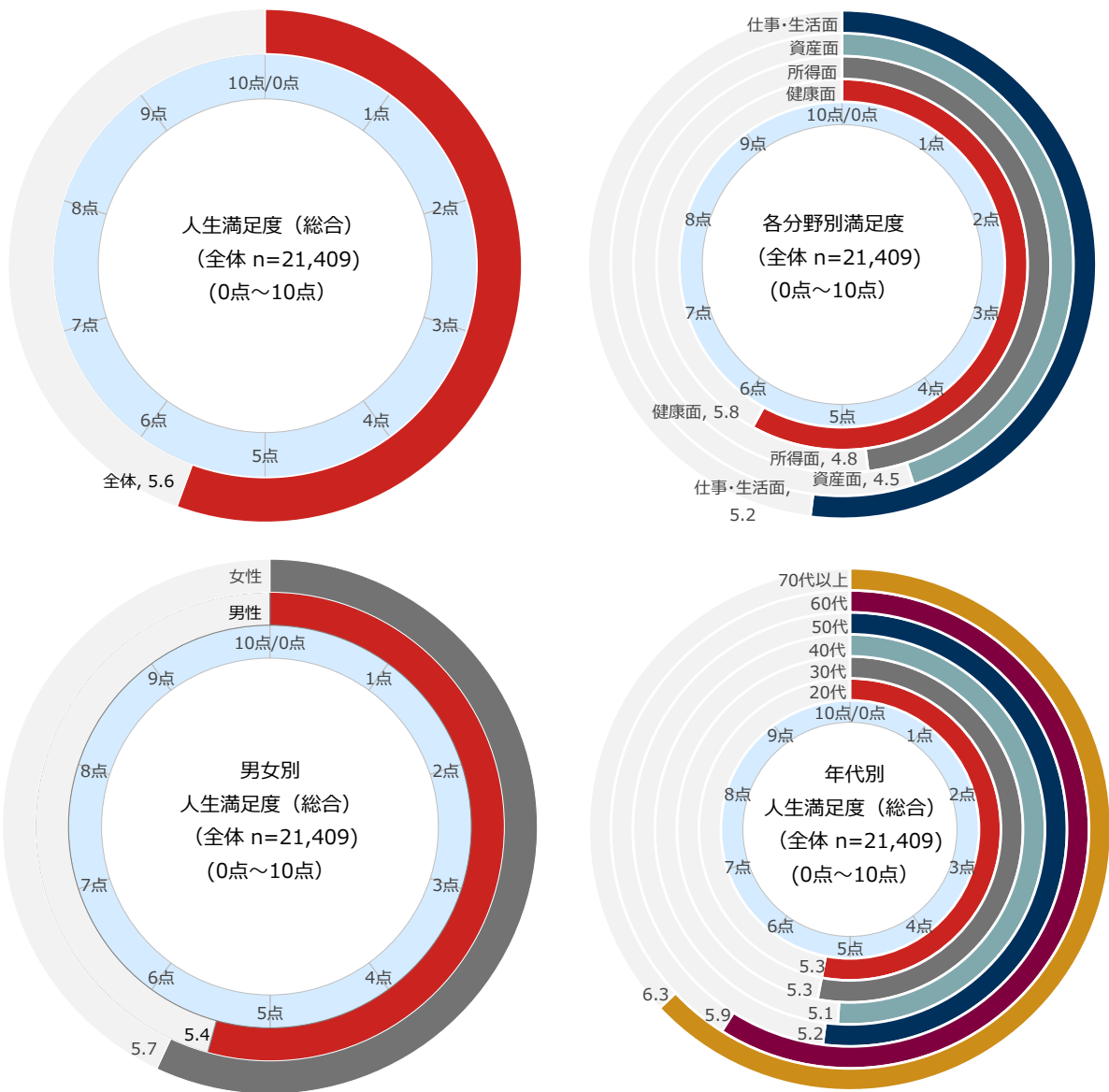
URL : <http://www.nomura-am.co.jp/corporate/surveys/>

◆人生満足度

総合的な人生満足度は、10点満点中、5.6点。健康面では高く、また仕事・生活面では平均的並みだが、経済面では見劣りしており、特に金融資産面での満足度は低い。男女別には女性の方が高く、年代別にはシニア層での満足度が高い。

Q)あなたは、あなたの人生に対してどの程度満足していますか。「とても満足している」を10点、「とても不満だ」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。各分野と総合的にみた人生満足度について回答してください。(全体 n=21,409)

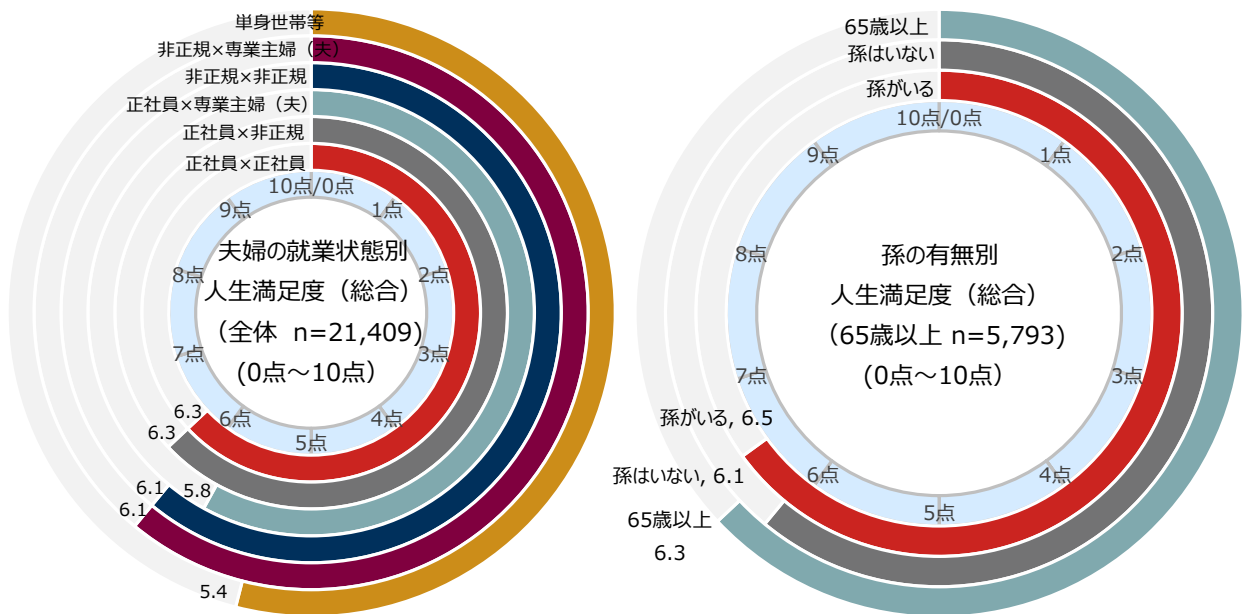
<人生満足度(男女別・年代別総合満足度、健康・所得・資産・仕事生活面での満足度)>



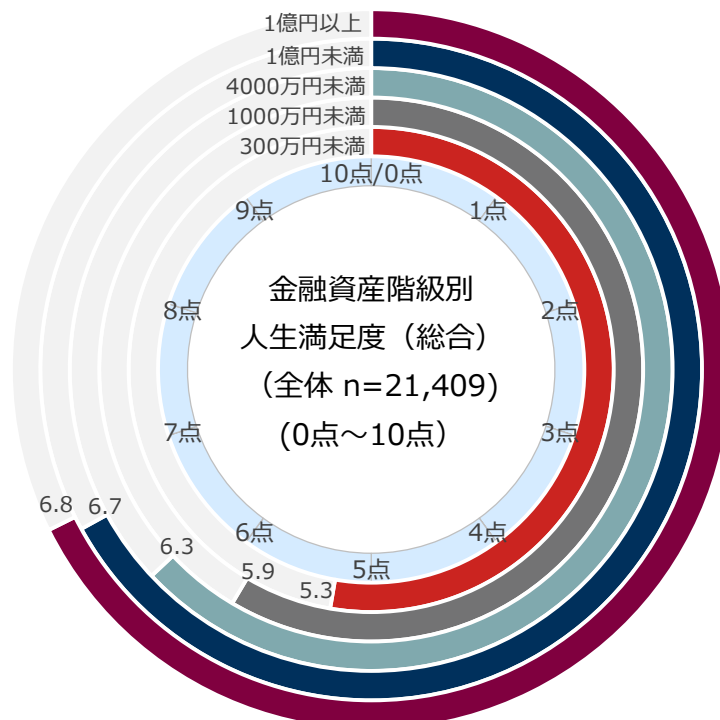
夫婦の就業状態別にみると、総じて共働き世帯での満足度が高い傾向がある。また 65 歳以上において、6.3 点となり、全体平均(5.6 点)よりも満足度が高いが、孫の有無別にみると、孫がいるシニア層の方が、やや人生満足度が高い結果となった。

金融資産階級別にみると、総じて金融資産が多い層で満足度が高い傾向が見られた、最上位階級となる 1 億円以上になると、満足度は概ね頭打ちとなっている。

<人生満足度(夫婦の就業状態別、65 歳以上における孫の有無別)>



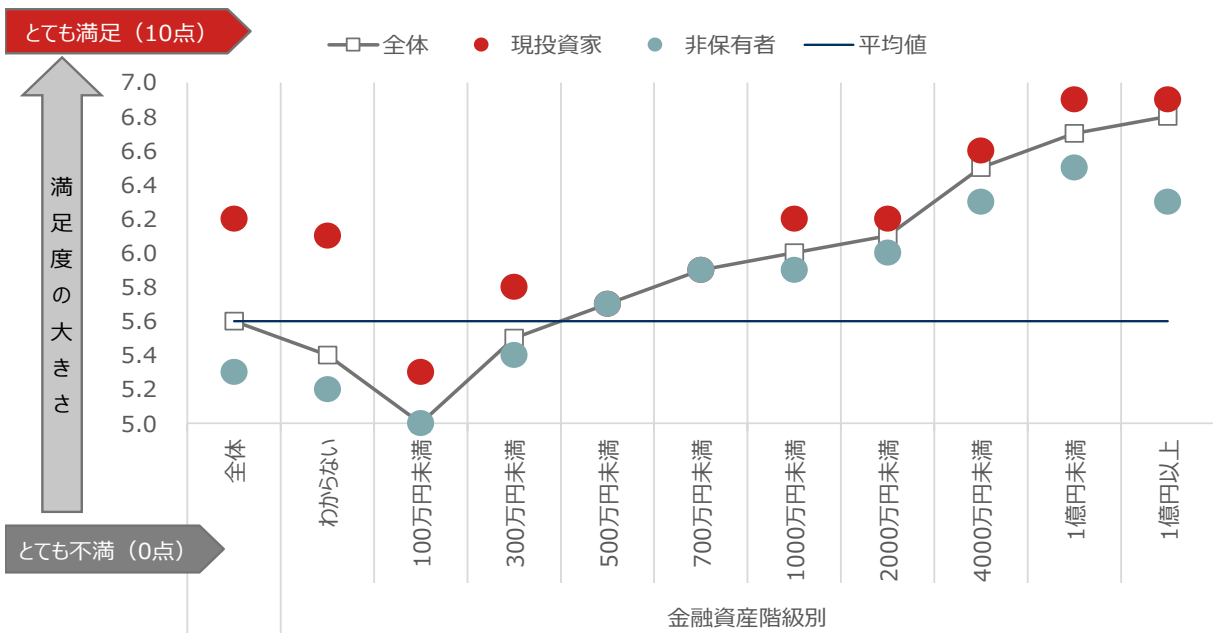
<人生満足度(金融資産階級別)>



◆人生満足度と資産運用の関係

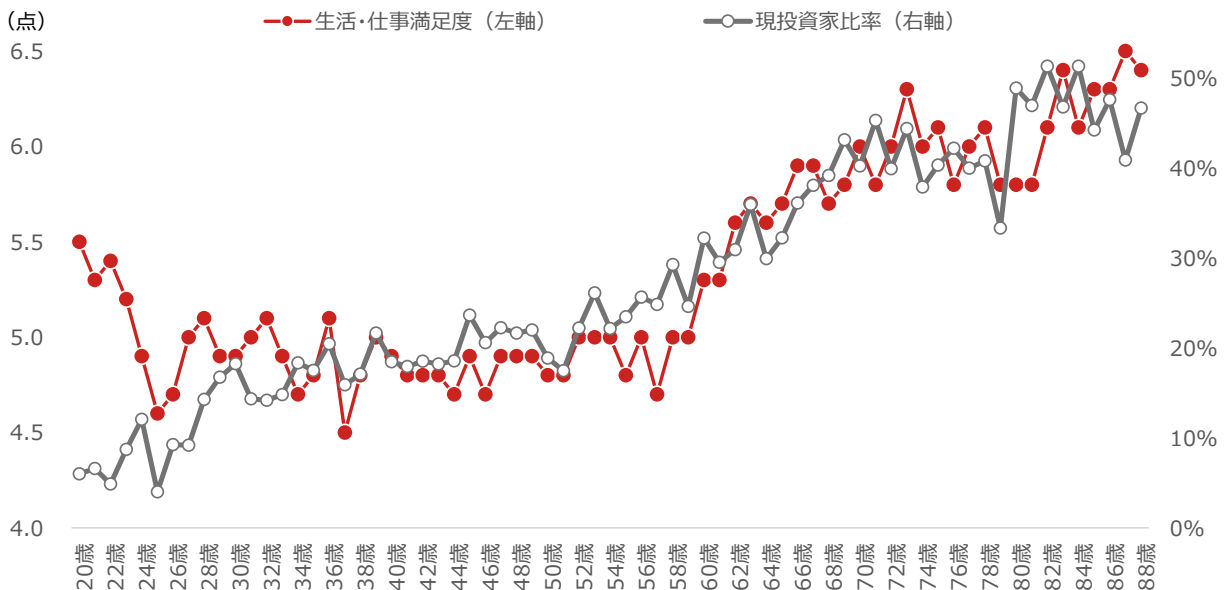
人生満足度と金融資産の関係をみると、金融資産が多い層で満足度が高い傾向が見られた。これは、シニア層ほど金融資産が多いことで年代別にも反映されている。もっとも同じ金融資産階級でも資産運用を行っている投資家の方が、株式や投資信託を保有していない未保有者よりも人生満足度は高い。特に生活や仕事の満足度と投資家比率の関係が見られ、生活の質と資産運用とは密接している様子がうかがわれる。

<金融資産階級別人生満足度>



注) 金融資産階級「300万円以上 500万円未満」「500万円以上 700万円未満」では、現投資家と非保有者が一致している

<年齢別生活・仕事満足度と現投資家比率>

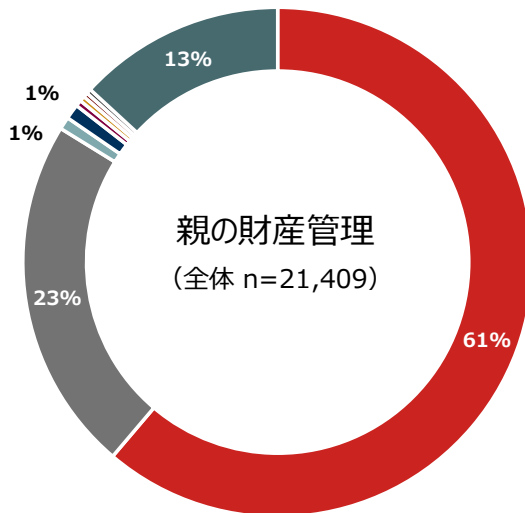


◆親世代の財産管理と子の意識

シニア層において、その親の財産管理について調べたところ、8割程度が財産状況を知らないか、もしくは、知っていても何も支援していない状況にあった。一方、親の老齢化に関する認識をみると、介護を要する状況にあると認識しつつも、支援していない状況にある。

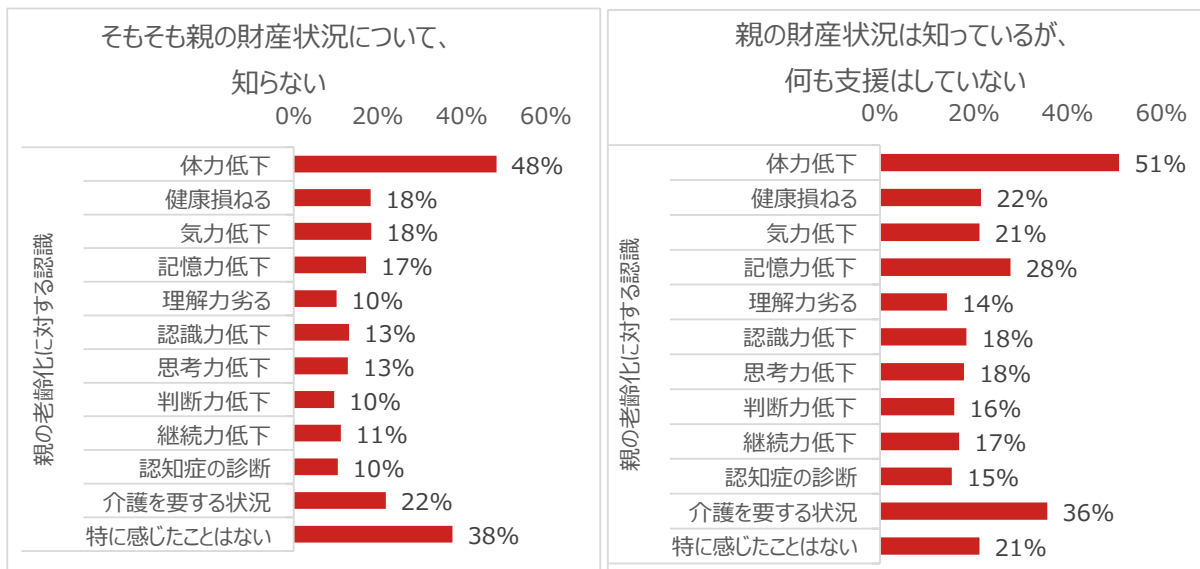
Q)親の財産管理についてどのような支援をしていますか。あるいは、親御様をご存命中に、どのような支援をしていましたか。(全体 n=21,409)

<親の財産管理に関する対応状況>



- そもそも親の財産状況について、知らない (知らなかった)
- 親の財産状況は知っている (知っていた) が、何も支援はしていない (しなかった)
- 親の財産状況を調べてみたら、高齢期においても複雑な商品やリスクの高い商品など知らない投資商品を購入していた
- 投資商品を購入する際には、金融機関で親と同席したり、電話で商品説明を聞いたりして、金融機関側から説明を受けた
- 家族信託型金融商品を保有しており、親が認知症の際には、運用状況だけは説明を受けている
- 親が認知症に陥り、運用商品は売却もできず、困ったことがある
- 親は投資経験があるが、自分は投資に詳しくなく、金融機関側から聞いた投資商品に関する説明を理解できなかった
- 金融機関側から親の認知機能の低下について問い合わせをもらった
- 答えたくない

<財産管理状況別にみた親の老齢化に対する意識>



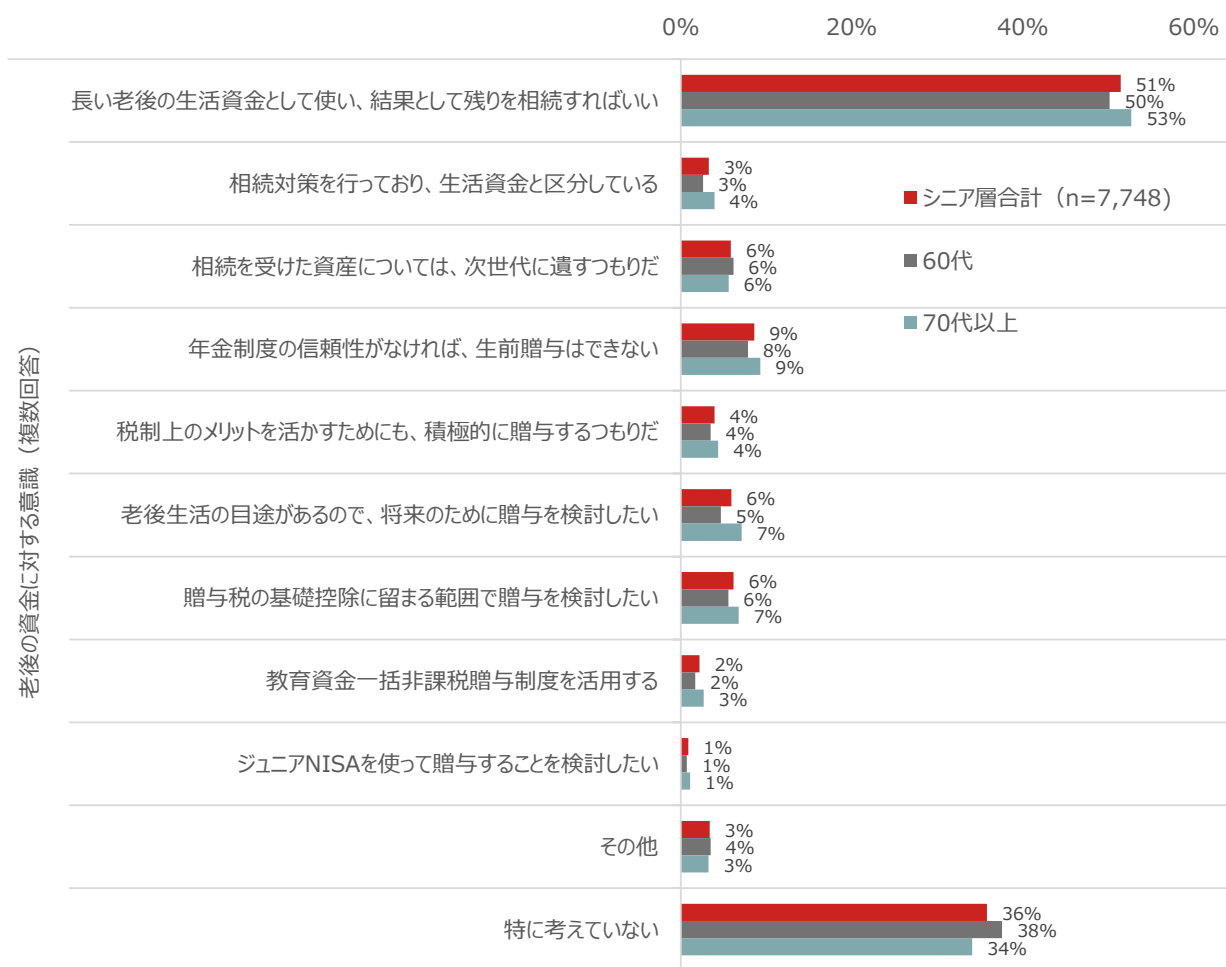
◆老後資金の運用に対する意識

老後資金について、シニア層の半数が「生活資金として使い、結果として残りを相続すればいい」と回答しており、長寿生活の中で老後資金は目減りする可能性がある。

金融資産階級別にみると、上位層では、生活資金と区分して相続資金を準備しており、相続対策や贈与について積極的に取り組んでいる。

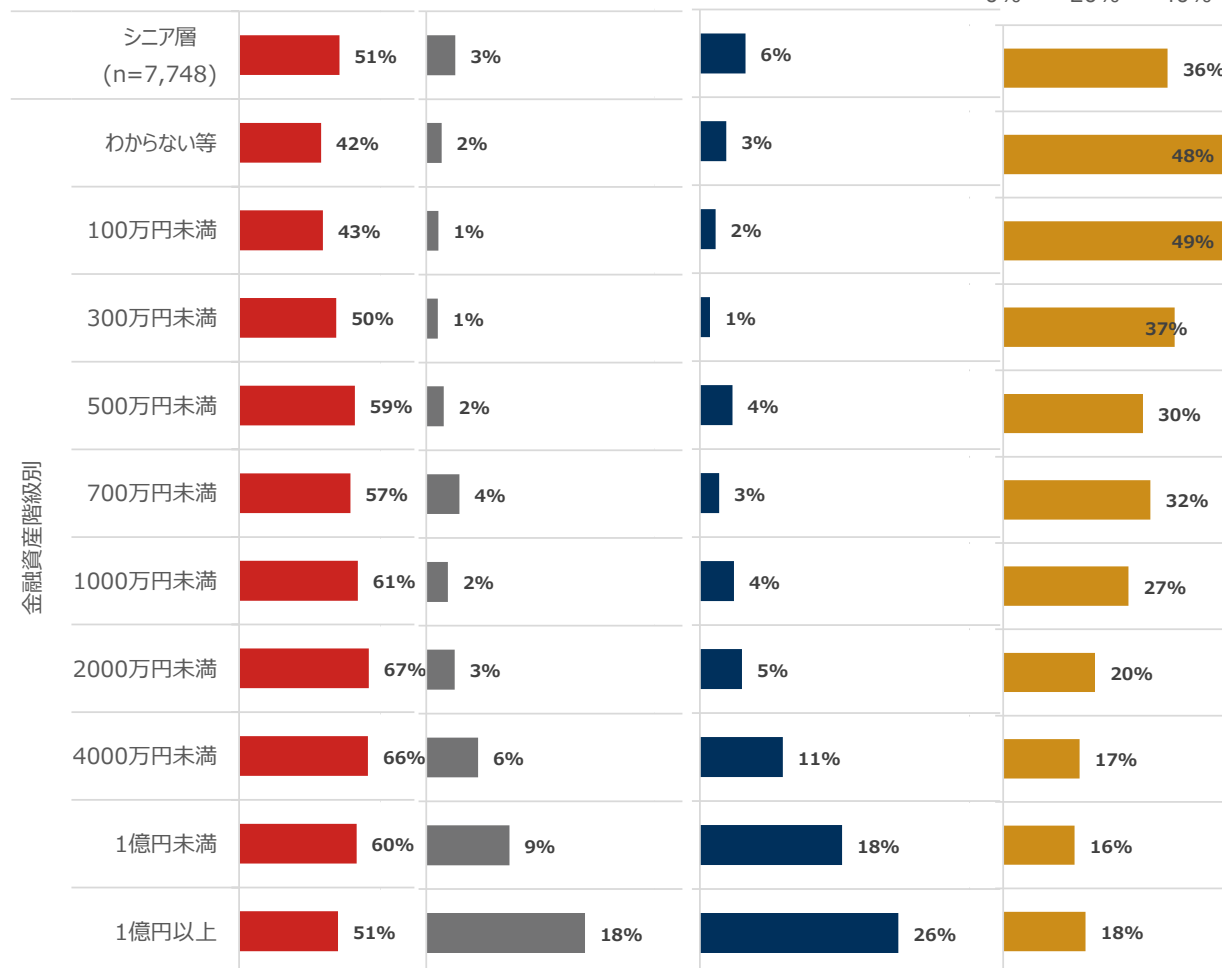
Q) 60 歳以上の方に伺います。老後資金について、長い老後の期間や贈与・相続に関連して、どのように考えていますか。(60 歳以上 n=7,748)

＜老後資金に対する意識＞



<金融資産階級別老後資金に対する意識(主な項目)>

■ 長い老後の生活資金として使い、結果として残りを相続すればいい (0% 50%)
 ■ 相続対策を行っており、生活資金と区分している (0% 20%)
 ■ 老後生活の目途があるので、将来のために贈与を検討したい (0% 10% 20% 30%)
 ■ 特に考えていない (0% 20% 40%)



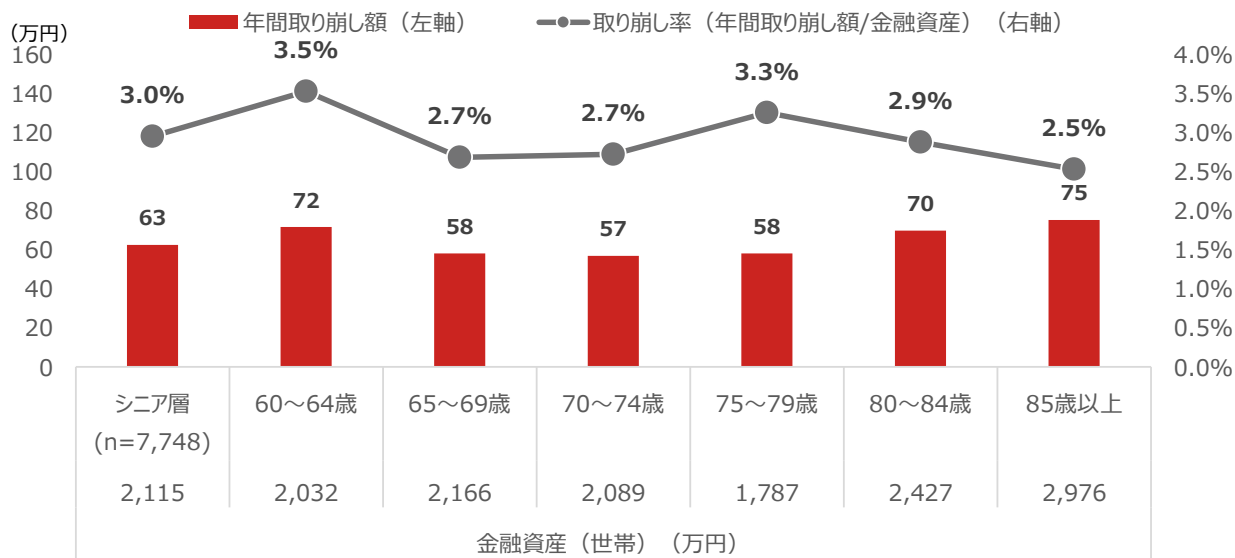
◆金融資産の取り崩しの状況

金融資産の取り崩しは、年間で資産の3%程度となった。前回調査(2017年11月実施「金融ジェロントロギーにおける資産運用に関する調査」と比較すると、金融資産や取り崩し額は、違いがあるものの、取り崩し率は3%と同じであった。

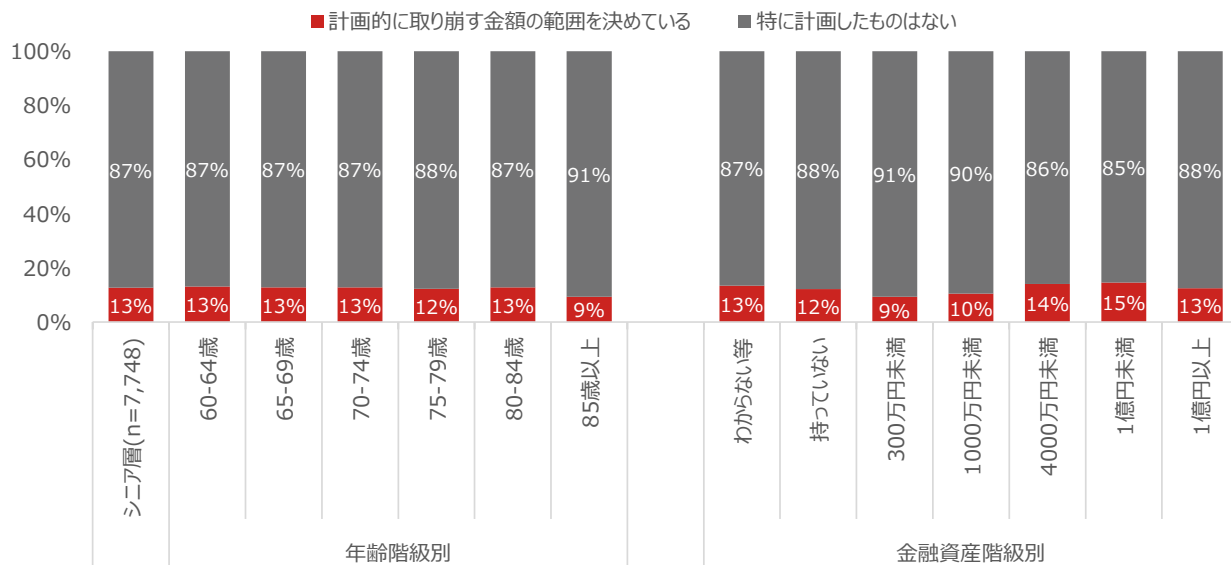
計画性についても9割程度が計画はないとしている。これについても前回調査と同様の結果となった。

Q) 1年間の支出に対して、どれくらいの金額を金融資産などの資産から計画的に取り崩して支払に充てていますか。最近の1年間を想定してお答えください。(60歳以上 n=7,748)

＜金融資産取り崩し額と取り崩し率＞



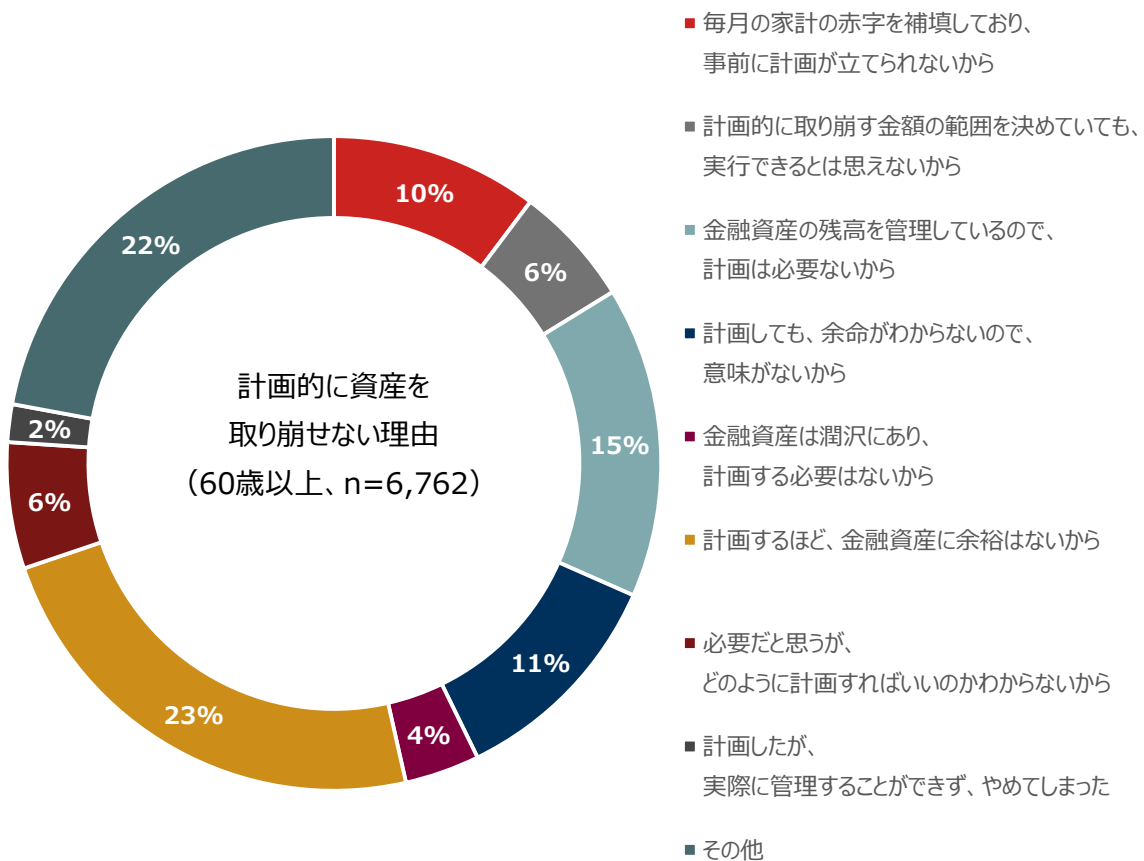
＜金融資産取り崩し計画の有無＞



金融資産の取り崩しに関して、計画的な取り崩しができない理由を調査したところ、「計画するほど金融資産に余裕がない」との回答が 2 割強となった。金融資産が限られている以上、むしろ計画的に取り崩しが必要であるが、実際には計画性がない。また次いで「残高を管理しているので計画は必要ない」との回答が 15%となったが、事後的な管理では、意図せざる残高の減少に直面しても、時すでに遅し、とばかりかねない。将来に対する備えや長い老後生活を支える上で、計画性が求められる

Q) 金融資産の取り崩しに関して「特に計画したものはない」を選択した回答者にお尋ねします。金融資産の取り崩しに関して、なぜ計画的に取り崩すことができないのでしょうか。(60 歳以上、計画したことはない n=6,762)

<計画的に資産を取り崩すことができない理由>

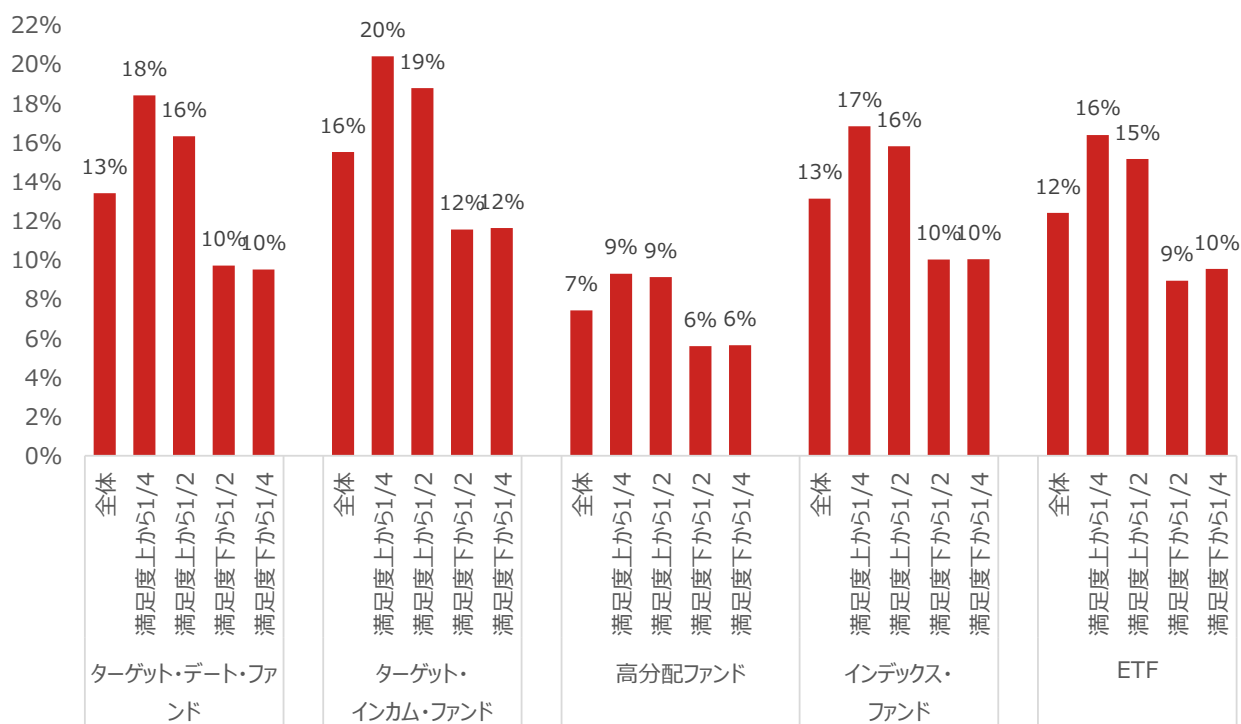


◆投資商品に対する利用意向

老後資金の運用において、人生満足度別にみた投資商品の利用意向をみると、全体では、高分配型ファンドに対する利用意向が低いほかは、ターゲット・インカム・ファンド、ターゲット・データ・ファンド、インデックスファンドやETFの意向率は1割強となった。ターゲット・インカム・ファンドについては、人生満足度の上位層で2割程度の利用意向がみられ、比較的関心が高い。金融資産を維持することで、高い人生満足度を保ちたいシニア層が注目しているものと考えられる。

Q)人生100年時代の資産運用について、どのような投資商品に関心や投資意向がありますか。(全体 n=21,409)

<人生満足度別投資商品に対する利用意向>



【調査概要】

■ 調査目的

「人生100年時代」と言われる個人の長寿化と社会の超高齢化において、保有する金融資産が最期まで枯渇することなく、長期に維持されることが求められている。

本調査では、20歳以上の男女・約2万人を対象に、金融ジェロントロジー（金融に係る老年学）に基づき、ご本人やご家族の老齢化の状況や認知機能の低下などの中で、家族の支援、金融資産の運用や管理の実態と意識を把握することをねらいとしている。またこれらの調査結果を公表することにより、資産運用に関する調査研究の向上など、社会への還元を図ることを目的とする。

■ 調査対象・サンプル数

20歳以上までの男女（調査会社に登録しているモニター）から2万サンプルを目途に調査を実施。なおサンプルについて、国勢調査など人口統計等に基づき、サンプルを回収している。

＜本調査におけるサンプル数（属性別）＞

区分	項目	(サンプル数)	(構成比)	区分	項目	(サンプル数)	(構成比)
全体	合計	21,409	100%	就業別	会社員	5,025	23%
年代別	20代	2,672	12%		会社役員・管理職	749	3%
	30代	3,241	15%		公務員・団体職員	806	4%
	40代	4,171	19%		自営業	1,173	5%
	50代	3,577	17%		自由業・専門職	631	3%
	60代	3,797	18%		派遣・契約社員	1,034	5%
	70代以上	3,951	18%		パート・アルバイト	2,900	14%
男女別	男性	10,903	51%		学生	505	2%
	女性	10,506	49%		専業主婦・専業主夫	4,026	19%
婚姻別	未婚	5,621	26%		退職後、再雇用等	137	1%
	既婚	13,559	63%		退職後、無職	2,170	10%
	離別	1,398	7%		その他（有職）	209	1%
	死別	831	4%		その他（無職）	2,044	10%
区分	項目	(サンプル数)	(構成比)	区分	項目	(サンプル数)	(構成比)
年間所得	わからない等	7,946	37%	負債区分	負債保有	4,639	22%
(世帯)	300万円未満	4,789	22%		負債非保有	11,913	56%
	300～500万円未満	4,667	22%		わからない等	4,857	23%
	500～1000万円未満	2,873	13%	投資信託保有	現保有	2,796	13%
	1000～2000万円未満	612	3%		過去保有	1,729	8%
	2000万円以上	522	2%		非保有（未経験）	16,884	79%
金融資産	わからない等	7,679	36%	一般NISA	NISA口座開設者	3,873	18%
(世帯)	持っていない	4,170	19%		(稼働口座)	2,896	14%
	300万円未満	2,972	14%	つみたてNISA	つみたてNISA	986	5%
	300～1000万円未満	2,523	12%		(新規開設)	674	3%
	1000～4000万円未満	2,943	14%		(切り替え)	312	1%
	4000万円～1億円未満	901	4%	DC年金	企業型DC加入者	726	3%
	1億円以上	221	1%		iDeCo加入者	576	3%

■ 調査方法 / 調査時期

・インターネット調査 2018年6月13日（水）～6月18日（月）

※ 過去に野村アセットマネジメントが実施した調査結果については、以下のウェブサイトに掲載しています。

URL: <http://www.nomura-am.co.jp/corporate/surveys/>